

各位

## 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

京都市立上高野小学校

4月18日に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について、分析しました。この調査では、国語・算数の2教科のテストと同時に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査（児童質問紙調査）も実施しています。生活習慣と学力との関係などもふまえ、一部ではありますが、ご報告いたします。

**総合結果（国語科・算数科）**

国語科、算数科の2教科について、本校は国語科、算数科とも全国・京都府の平均を上回っており、概ね満足できる結果であったといえます。また、児童質問紙調査の結果からも、国語科・算数科とも意欲的に学習に取り組もうとする姿勢が伺えます。学習に意欲的に取り組むことで知識や理解の身に付き方も変わってくると思います。子どもたちの意欲が高まるような授業になるよう、分かりやすく楽しい授業を目指していきます。

**国語科より**

全体的によくできています。特に、「話すこと・聞くこと」の領域での正答率が高く、話し手の意図を捉えながら聞き、質問をしたり自分の考えをまとめたりする力が身につけているといえます。

また、「読むこと」の領域での正答率も非常に高く、文章の内容を的確に押さえ、文章全体を効果的に読むことができています。「書くこと」の領域については、全国及び京都府の平均と比較すると同じくらいの正答率ではありますが、自分の考えを書いたり分かりやすく伝えたりすることについては課題がみられます。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域については、京都府の平均よりやや低く、その中でも「漢字を文の中で正しく使う」という趣旨の問題については全国・京都府の平均を大幅に下回る結果となりました。これらの結果から、相手（話し手）の意図を捉え、文章の内容を理解する力や、自分の考えを伝えようとする意欲はあるので、分かりやすく伝えるために話や文章の組立てを考える力を伸ばしていく必要があると考えます。また、文章内で正しい漢字を使うことができるようになることも課題であると思われます。既習の漢字を普段から使うように心がけ、文章の構成を意識して書く指導にも力を入れていきたいと思います。

**算数科より**

全体的に国語科の調査と同様、よくできています。「量と測定」「図形」「数量関係」の領域については全国・京都府の平均を上回る結果となっています。また、「数と計算」の領域については京都府の平均とほぼ同じくらいの結果となっています。特に、図形の構成やグラフを読み取って解答する問題については正答率が9割を超える結果となっていました。児童質問紙調査の「解答時間は十分でしたか（算数）」の質問に「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答している児童が9割を超えていたことから、問題やグラフを理解する力が身につけていると考えられます。

また、今回の算数科の調査の中で、本校児童の正答率の低かった問題について分析すると、加法と乗法の混合した計算問題や、計算の仕方を考え工夫して解答する問題について間違いが多く見られました。算数科の基礎的な知識は身につけていますが、幾つかの要素が合わさった問題であったり、計算の仕方を応用して活用したりすることについては、今後の課題といえます。算数科の基礎・基本については十分に理解できていると思われるので、それを上手く使って活用できるよう、指導方法や指導の内容を見直していきたいと思います。

## 児童質問紙調査より

Q：5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

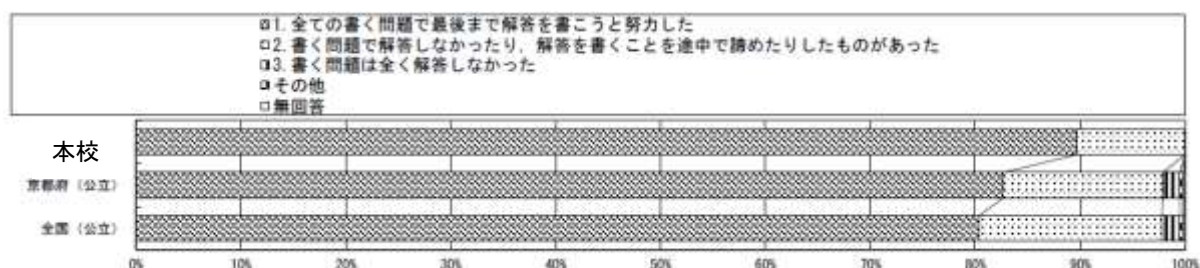


Q：国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか。

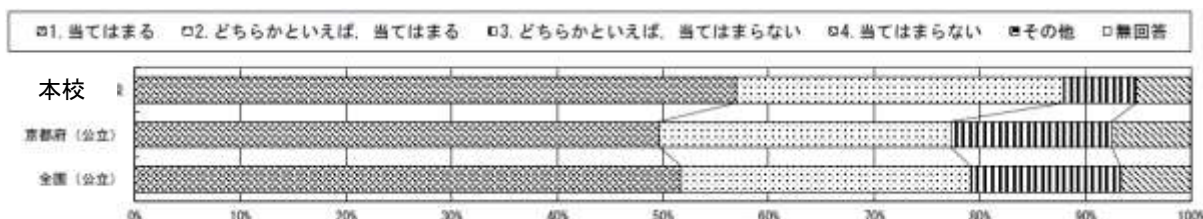


国語科の結果からもわかるように、自分の考えをうまく伝えたり、話や文章の組立てを工夫して伝えたりすることに関しては、全国・京都府の平均と比べやや下回っています。授業での話し合い活動で自分の意見を発表することはできていますが、伝えたい内容を整理し相手意識をもって伝えることができるよう、授業でも取り組んでいきたいと思います。

Q：今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。



Q：算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。



「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」の質問では、「全ての核問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童が約90%、また「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」の質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童も約90%いることから、学習に対し意欲的に取り組もうとする姿勢が伺えます。

## 保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てではなく、順位を競うものでもありません。今回の全国調査やジョイントプログラムの結果を見ると、子どもたちの学力は着実に伸びてきています。ご家庭での関わりやご支援のおかげだと思います。学力は個人の努力だけではなく、学校・家庭・地域で育てていくものだと考えています。今後ともご協力の程、よろしくお願いします。

【京都市の調査結果 <https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000257347.html>】